



大口城跡で新発見!?

西南戦争の塹壕跡から



新納忠元



【鹿児島県立図書館蔵】



大口城(山城) 寛文～延宝年間(寛文元年は1661年)

寛文～延宝年間に描かれた絵図(県立図書館蔵)。防衛のためか、城内の詳細は描かれていない。

薩摩の山城

大口城は、「牛山城」「牟田口城」とも呼ばれ、もともと牛屎氏の居城(1158～)でした。戦乱に巻き込まれ、牛屎氏―菱刈・相良氏―島津氏(出羽守忠明)―菱刈氏―島津氏と、その所領は何度も変遷しました。戦国武将として名をはせた新納忠元公を地頭に迎えてからは、島津藩北薩の要塞として幕末まで利用されました。

西南戦争の塹壕跡を発見!?

歴史ある大口城ですが、城としての役目を終えると、孟宗竹や雑木に覆われ原野となっていました。そんな大口城跡を甦らそうと2016年から伐採・測量・桜木植樹を続けている「大口城を愛する会(広報いさ2021年3月号)」のみなさんが、この度、西南戦争(※)の塹壕跡とみられる4基の遺構を発見しました。新東晃一会長は「トレンチを掘って地

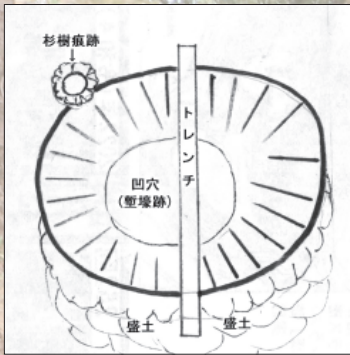
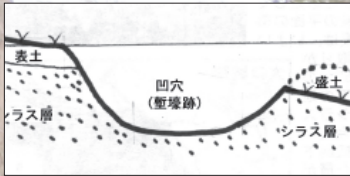
土塁の一部から古墳時代の地下式横穴墓とみられる跡も発見!

本丸(写真右側)を臨む大空堀は最大で高さ10mを超える!



新東晃一さん

県職員として県埋蔵文化センター次長などを歴任。定年退職後に、豊臣秀吉の薩摩征伐の足跡を辿る研究を行っている。大口城跡の調査・整備活動は、268回延2296人が参加(1月末現在)。



11月5日の西南戦争遺構の調査が始まりました



杉樹痕跡

第5回桜植樹祭オーナー募集
 日時：3月5日(日) 10時〜
 料金：一口2,000円(当日受付払い)
 申込・問い合わせ先
 ☎090-1251417341 (新東)

※西南戦争(1877)において、伊佐市では高熊山・坊主石山で薩軍・官軍の激戦が行われました。高熊山山頂には、当時の塹壕跡や弾痕が刻まれた岩などが残り、激しい戦闘を現在に伝えています。



質を確認したところ、人工的に掘られた穴であることがわかりました。大口城跡と高熊山はわずか2・4キロの位置関係にあることから、敗走する薩軍が掘った塹壕跡とみて間違いのないと思います」と話します。また、この地域には「黄金の杉(杉樹痕跡を発見)」の伝承話があるそうで、新東さんは「この杉は薩軍兵士の慰霊のために、後から植樹されたものだろう」と考えています。大口城跡の整備と並行して、今後、周辺に銃弾などが落ちていないか探知機で調査を進めていく予定です。

大口城を愛する会のみなさん

毎週土曜日に元気に作業しています!



大口城跡の調査 第265回

【2022年(令和4)12月3日(土)】

